



平成25年 5月14日

各 位

会 社 名 株式会社ジーンテクノサイエンス
代 表 者 名 代表取締役社長 河 南 雅 成
(コード番号：4584 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取締役CFO 三ツ木 勝俊
(TEL. 03-3517-1353)

扶桑薬品工業株式会社とのバイオ医薬品高産生細胞株の樹立を目的とした
共同研究契約締結の件

当社は、このたび、扶桑薬品工業株式会社（以下、「扶桑薬品」といいます。）と、バイオ医薬品高産生細胞株の樹立を目的とした共同研究契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

本共同研究では、扶桑薬品と北海道大学との共同研究の成果である動物細胞を用いた組換タンパク質大量発現技術を用い、扶桑薬品と当社が共同で、当社のパイプラインの中から選択した開発品について、高産生細胞株の樹立を目指します。両社の合意に基づき、当社のバイオ後続品及びバイオ新薬パイプラインの中から選択した複数のプロジェクトを進めることが可能な契約内容となっております。なお、本共同研究の成果は、両社の寄与割合に応じて権利化されることを想定しております。

当社は現在、バイオ後続品開発に軸足を置き、早期のアライアンスと黒字化を目指しておりますが、高産生細胞株を樹立することにより、製造コストを大幅に低減できる可能性があります。このため、本共同研究が順調に進捗し、高産生細胞株の樹立に成功すれば、当社のバイオ後続品の競争優位性を高めることができ、収益性やアライアンスの確度を高めることができるものと考えております。

一方で、バイオ新薬開発においても、高産生細胞株が樹立できていれば、ライセンスアウト交渉を有利に進めることができると考えております。

当社のビジネスモデルはノウハウ依存型であり、特定の技術を有しないことが弱みでありましたが、本共同研究の成果を技術として保有することで、企業価値の向上をより加速できるものと期待しております。

本共同研究の成果により、優れたバイオ医薬品を、疾患で苦しんでおられるより多くの患者に届けることができると考えております。

なお、本契約締結は株式会社ウィズ・パートナーズ（所在地：東京都港区）の協力を得て行いました。

本共同研究契約の締結による当面の業績への影響は軽微であります。

以 上